

教育課程研究部会

I 研究テーマ

「教育課程実践上の工夫」

II 研究テーマの設定の理由

新学習指導要領がスタートして小学校では3年目、中学校では2年目を迎えた。各学校では、特色ある教育課程の工夫・実践に努めている。小中連携を生かした教育課程をどう進めていくか、防災教育やキャリア教育等を教育課程の中にどう位置づけていけばよいか、外国語活動にどう取り組んでいったらよいか、授業時数の増加にどう対処していくか、授業時数確保にむけどんな工夫をしていくのかなど、課題は多い。新学習指導要領を実施していく中での課題について、どう教育課程実践上の工夫をしていけばよいかを考え、上記のテーマを設定した。

III 研究の経過と内容

1 研究の経過

各学校では、特色ある教育課程の工夫・実践に努めている。各学校で教育課程実践上の工夫していることについて、発表し合い、情報交換をしていく中で、成果と課題について討議を行った。

研究日	研究内容
4 / 1 1	研究組織作りと研究テーマの決定
5 / 1 4	年間計画と研究内容の検討
6 / 1 8	外国語活動実施に向けての課題
7 / 3 1	実践報告と討議（各学校の取り組みの様子）
8 / 1 6	実践報告と討議（各校の取り組みの様子）
9 / 3	実践報告と討議（各校の取り組みの様子）
10 / 1	県教研レポートの検討・資料づくり
11 / 5	県教研の報告と問題点の洗い出し
1 / 2 1	今年度の反省と来年度への課題

2 研究参加者 9名

3 研究の内容

〈各学校の教育課程実践上の工夫〉〈抜粋〉
 〈A小学校の実践 「小中連携キャリア教育」〉

(1) 具体的な実践内容

① 目的

児童生徒一人一人に、将来の夢や希望を膨らませ、「学ぶこと」「働くこと」、そして「生きること」を関連付ける活動など、「自己の生き方を追求」する活動を通して、社会的・職業的な自立ができる能力を育成する。

② 基本的な考え方

ア「自己の生き方の追求」のとらえ方

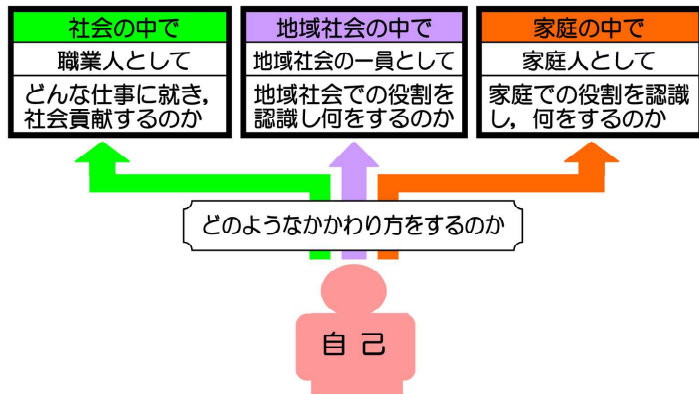
人は生涯、社会や地域社会、家庭などにおいて、職業人として、地域の一員として、家庭人としての役割をもって生きていく。

「自己の生き方の追求」とは、個々人の価値基準に基づき、①社会、地域社会、家庭でどのような役割を果たそうとするのか、さらに、②三者のどこを大切にしながら、生きていこうとするのかを考え続けることとした。

- ・多様な価値に配慮した課題解決

社会や地域社会、家庭の中で役割をもち、様々な価値を認め判断して課題解決する。

- ・かかわり方を選択・実行
家庭や地域社会、社会とのかかわり方をライフステージに応じて自ら選択・実行する。



(2) 育てたい能力

基礎的・汎用的能力	小学校		中学校
	1～4学年	5～6学年	7～9学年
○人間関係形成・社会形成能力 多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力。	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや返事をする。 ・自分の考えをみんなの前で話す。 ・友達のよいところを認め、励まし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の気持ちや考えを理解しようとする。 ・思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする。 ・異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲との関係に配慮しながら、気持ちよい交友関係を作ろうとする。
○自己理解・自己管理能力 自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と仲良く遊び助け合う。 ・自分や友達のよいところを見つけ励まし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や課題に気付き自分らしさを発揮する。 ・話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの長所を伸ばし、それによって課題を克服しようとする前向きに学び続けようとする。
○課題対応能力	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の準備や片づけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の仕事に対して責任を持って最後まで 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や希望を持ち、実現を

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切に計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことは自分で行う。 ・作業の手順が分かり、学習や生活の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・までやり通す。 ・憧れとする職業を持ち、今、しなければならぬことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目指して、自分で課題を決め、積極的に解決していく。
○キャリアプランニング能力 「働くこと」の意義を理解し、自ら果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。	<ul style="list-style-type: none"> ・身近で働く人々の様子が分かり、興味関心を持つ。 ・家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな職業や生き方があることが分かる。 ・係や当番活動に積極的にに関わり、働くことの意義が分かる。 ・日常生活や学習が将来役立つことに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な産業・職業に関する情報を探し、自分の進路や生き方の選択に生かす。 ・委員会活動や係活動など様々な選択肢を主体的に判断し、自分にふさわしい決定を行う。

〈B 小学校の実践 朝の読書活動の取り組み 保護者・地域人材の活用事例〉

(1) 具体的な実践内容

① ねらい

- ・一日の始まりを、落ち着いた気持ちと静かな雰囲気ですスタートする。
- ・読書の習慣を身につけるとともに、豊かな心の育成を図る。
- ・読書量、知識量の増加と読解力、表現力の向上を図る。

② 具体的な取り組み

- ・教師もいっしょに読書をする。
読書時間を10分とする。
朝の読書用の本を用意する。
- ・月曜日から金曜日まで実施する。
火曜日と金曜日に読み聞かせを実施する。(保護者・地域の方の有志)
読み聞かせがない場合、児童のみの読書とする。(木曜日は百人一首)
- ・小説、物語、伝記、等を予め用意する。
- ・読むこと以外に何も求めない。
感想文等を書かせない。

③ 読み聞かせ活動

- ・地域や保護者の方に朝の読書活動(読み聞かせ)への協力をしていただく。

IV 研究の反省と課題

- ・各学校の教育課程実践上の工夫について発表し合い、情報交換をしていく中で、教育課程実践上の工夫について研究を深めることができた。他校の様子を聞いていく中で、自校の取り組みの参考になった。一人ひとりが実践を発表し合い、それについての討議の時間を十分確保できていることは、本部会のよいところでもある。部員数が増えると、更に部会が活性化されると思う。
- ・土曜授業の実施、小学校英語の教科化等、今後の動向を見ながら、教育課程を実施していく上での課題を探り、研究を進めていきたい。